週刊 酒類・食品 News&解説

令和６年４月19日（金曜日）　第3393号
〈昭和42年７月10日第３種郵便物認可〉
毎週金曜日　発行　　編集発行人　石母田 健
購読料 ６ヵ月　14,300円（税込み）
振替番号 東京4－71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社／東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル９階
☎03(5847)6611㈹　FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924　大阪支局☎06(6353)1791
http://www.nikkankeizai.co.jp/

3月清涼飲料市場

天候恵まれず7%減

２０２４年３月の清涼飲料市場は、数量ベースで前年比７％減（累計０・５％増）だった。

前年同月は１％増とベースは高くなかったが、天候に恵まれない日が多く、低温で止渇ニーズが衰退。ホット商材への期待はあったが、降水で人出が鈍り、購買行動そのものが減った。特に自販機をメインチャネルとする缶コーヒーへの影響は大きかった。また、これら悪天の日が土日に多かったことも痛い。生活用水としての需要があるミネラルウォーターは健闘したブランドも見られたが、市場全体を支えるには至らず。

４月は前年同月が４％減とベースが低く、加えて本稿執筆時点（４月８日）で既に都内が夏日を記録済みなど、好環境の予感はある。３月は止渇ニーズが低調だった炭酸、麦茶、スポーツドリンク、ミネラルウォーターの巻き返しに期待がかかる。また、主要メーカーの多くが24年の最注力カテゴリーに位置付けている緑茶のリニューアル品が出揃うこともプラスに働くかもしれない。

4月は主要緑茶ブランド出揃う

コカ・コーラシステム＝全体６％減（前年並み）。悪天で業界最大規模である自販機の動きが鈍る。前年同月が４％増と業界トップクラスの伸びだった反動も（本紙推計）。

サントリー＝全体６％減（１％増）。「天然水」２％増（６％増）は「きりっと果実」、新製品「FRUIT-SPARK」などエクステンション品で底上げしたが、「ボス」14％減（８％減）、「伊右衛門」前年並み（５％増）、「グリーンダカラ」19％減（３％減）。トクホ・機能性表示食品計72％増（10％増）で「特茶」「伊右衛門 濃い味」が好調。

アサヒ＝全体９％減（１％増）。「おいしい水」（１％増）、「ワンダ」18％減（14％減）。「カルピス」はコンク４％増（12％増）、ストレート12％減（１％減）。「十六茶」17％減（９％増）、「バヤリース」34％減（25％減）、「ウェルチ」26％減（11％減）。

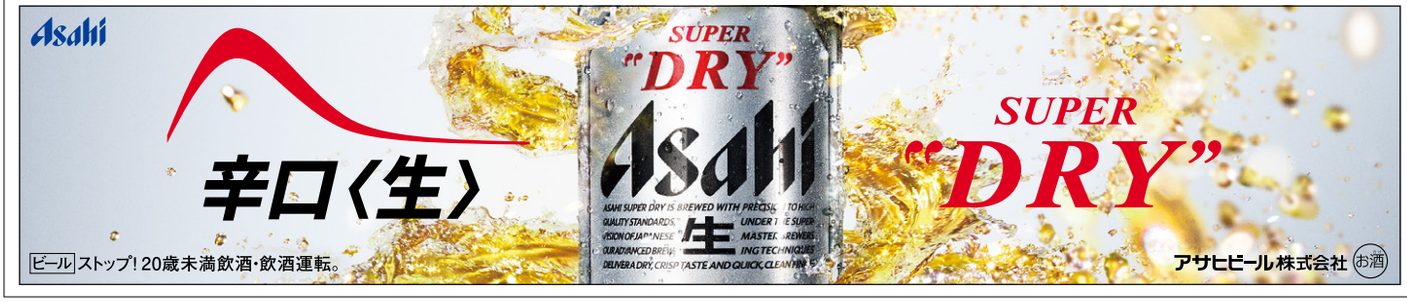
伊藤園＝全体９％減（３％減）。日本茶６％減（１％減）で「お～いお茶 濃い茶」「同 玄米茶」が好調。「健康ミネラルむぎ茶」の苦戦が響く。コーヒー３％減（４％減）は「タリーズ」がプラスも他がマイナス。野菜12％減（６％減）はトマトが好調（本紙推計）。

キリン＝全体２％増（11％増）で主要メーカーでは唯一のプラスだが、前年同月がミネラルウォーター大型製品終売の影響で９％減。「午後の紅茶」２％減（８％増）、「生茶」７％減（13％増）、「ファイア」25％増（15％増）、ミネラルウォーター７％増（27％増）。プラズマ乳酸菌入り飲料52％増（42％増）。「ト

（２面に続く）

社名	3月	1～3月
コカ・コーラ	※94	※100
サントリー	94	101
アサヒ	91	101
伊藤園	※91	※97
キリン	102	111
大塚	82	98
ダイドー	※83	※89
ポッカサッポロ	83	89
総市場	93	100.5

※は当社推計

主な内容

3月の清涼飲料市場　12面
小山本家酒造 蔵開き盛況　5面
アサヒ 甲子園球場でビール 100年前のビール　2面
輸入洋酒の日記念講演会　12 13面
サントリー 東京ガス等共同取り組み　7面
伊藤園 話題が必要な緑茶市場　11面
乳業 雪メグ イノベーション視察　5面
PCセンター モランボン「ジャン焼肉の生だれ」45周年　3面
スドー「100%フルーツ」を一新　15面
◎原料商品情報　8 9面